



なごやヘルスケア・アート  
マネジメント推進プロジェクト

vol. **01**

ヘルスケアとアート  
そのマネジメントを考える  
**BOOKLET**



# 子どもにやさしい 療養環境

名古屋市立大学 鈴木研究室における取り組みから

## 子どもにやさしい療養環境

名古屋市立大学 鈴木研究室における取り組みから

04 子どもとヘルスケアアート

06 子どもの療養環境デザインに関わる経緯／学生参加の意義と地域に開く病院

07 Pick up1 名古屋大学医学部附属病院

08 プロジェクトの流れ

09 Pick up2 あいち小児保健医療総合センター

10 事業のマネジメント

11 事例1 名古屋市立大学病院

13 名古屋市立大学病院クリスマスイベント

14 事例2 名古屋第一赤十字病院

16 事例3 名古屋第二赤十字病院

18 事例4 余語こどもクリニック

19 事例5 豊橋市民病院

20 事例6 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

22 研究室で関わったヘルスケアアート活動の一覧

24 アートの役割と期待するもの

25 ヘルスケアアートの分類

26 施設利用者の声／施設利用者へのアンケート

28 参加学生の声／参加学生へのアンケート

30 研究活動の主な業績

たか君はおなかが痛いので  
病院へ行くことになりました。



初めて来た病院には知らない人が  
たくさんいます。



めずらしいものもいっぱい。なんだか  
とっても不安です。「病院こわいよ〜」



だけど、もし病院が  
たのしくすごせる場所だったら、

もうこわくないよね

## 医療福祉施設的环境とケア

**心身の不調や不安を抱えた人たちが、より快適に過ごせるように。**

医療技術や生命科学の進歩にとともに、病気の治療の可能性が広がり人間の寿命は確実に延長しました。一方で治療を支える病院は、機能性と効率性を高め、徹底した清潔管理が求められるようになりまし。病院内部は人工的な材料に覆わ



れ、自然の色彩や素材感に乏しい空間となりがちです。温湿度はエアコンで一定に保たれ、人工照明に頼る閉鎖的な人工環境です。現代の医療空間と医療機器は高度に専門機能化し、人間としての日常感覚から遠ざかりつつあります。

健康な人間でさえ「病」に対しては漠たる不安を感じます。ましてや病気という理不尽なハンディを抱えた患者にとって、自らの病を客観的に認識し、治療に前向きに取り組むことは容易ではありません。

患者とその家族は「治療のためには我慢すべき」という心理状態におかれがちで、緊張感や不安感を抱えながら療養生活を送らなければなりません。病の治療と引き換えに、療養の長期化あるいは精神的苦痛を受

忍せざるを得ないのです。病院だけでなく、老人福祉、障害者福祉などのヘルスケア施設で過ごす弱者の皆さんが感じるストレスを軽減し、安心感に包まれながら前向きな気持ちで過ごせるように、より快適な環境作りへの配慮が求められます。

## 子どもの療養環境

### 家族ぐるみのサポートと遊びと学習の手助けを

深刻な病気とそれに伴う入院生活の経験によって、子どもがどのような心理状態に陥るか、大人が推測することは容易ではありません。大人と子どもの違いが経験的に語られることはあっても、こうした領域における実証的アプローチはほとんどなされていません。

しかし、小児患者が成人と大きく異なる点は、子どもが成長発達段階

にあることです。したがって治療プロセスにおける家族ぐるみのサポート、「遊び」と「学習」の手助けの必要性が強く求められます。

人的なサポート手法として、医療スタッフのほか、病棟保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、ホスピタル・クラウンのように医療スタッフ以外による支援の効果も認識されつつあります。

それ以上に物理的な療養環境そのものが小児患者に与える影響についての認識を深め、早急に改善する必要があるとあります。

日本では、病気を抱えた子どもたちの療養環境はけっして満足のいくものではありません。少子化と不採算などの理由から、小児病棟を有する総合病院は2割以下であり、成人との混合病棟化が進行しています。本来子どもたちのための専門病院を設け、療養環境を充実させるべきですがまだまだ課題の多い状態です。

## ヘルスケアにおけるアートの「ちがひ」患者さんだけでなく、その家族や医療関係者にも効果的。

入院経験のある方なら誰でも、病室の窓から見える風景がどれほど気持ちよくなるかを知っています。病室を離れ、観葉植物のあるデスクコーナーでくつろぐのもいい気分になります。

先進諸国の子ども病院では、明るい色彩、遊び心をくすぐるカタチ、親近感のある素材を積極的に採用しています。壁面全体を覆う水槽、天井に広がる光ファイバーの星空、アトリウムの巨大遊具など、病院とは思えない新しいデザインに挑戦しています。また、終末期を迎えたお年寄りのためのホスピスでは、木質系の落ち着いたインテリアと心温まるさりげないアート作品が療養生活を支えています。

日本では具体的な効果についての認識が十分浸透しておらず、支援体制も不十分なため積極的に採用する事例は限られています。

一方、アートをヘルスケアの現場

にいち早く採り入れたイギリスでは、投薬量の削減や入院期間の短縮につながるという医学的データが示されるなど、ヘルスケアにおけるアートへの理解が浸透しています。アートの導入により、コミュニケーションを誘発したり、病院内の雰囲気や和らげるなどの仕掛けとして、患者だけでなく、付き添いの家族や医療スタッフに対する効果についても期待されます。何よりも、アートだからこそ付与することのできる意味的価値が、ヘルスケア施設の理念を顕在化し、関係者のコミュニケーションを誘発するなど医療スタッフの職能に対するモチベーションを引き出し、ひいては利用者の皆さんへのホスピタリティにつながります。

## 地域に開けた施設にアートが手段となり互いに支え合う関係を

ヘルスケアに関わる医療福祉施設は、地域住民が安心して生活するためになくてはならない拠点です。家庭と地域と施設とが連続的な関係を築くために、相互が支え合う仕組みが求められます。施設は利用者だけでなく、地域に対して情報を開示し大きく門戸を開くことで、外部の知恵と力を受け入れることができます。ヘルスケア施設と地域の関係づくりに、アートやデザインを取り入れることが有効な手段のひとつとなります。それは単に空間の印象や雰囲気を変えるということだけではなく、医療福祉関係者や患者さん、ご家族との間に新たなコミュニケーションを生みながら、患者や医者を好みや個性のある一人の人間に戻す仕掛けにもなりうるのです。

病院を示す英語のホスピタル(hospital)は、そもそも客人を温かく迎え入れる「もてなし」を意味するホスピタリティ(hospitality)と語源を同じくするものです。医療福祉施設がそのようなもてなしの場であるために、アートやデザインの果たす役割があると信じています。



(左) Great Ormond Street Hospital For Children 手術前控え室廊下 (右) Royal London Hospital ヒーリングルーム

## 子どもの療養環境 デザインに 関わる経緯

96年に創設されたばかりの名古屋市立大学芸術工学部に赴任し、芸術と工学の融合した新しい学問分野での活動をスタートさせました。まずはそれまで蓄積してきた学校施設の建築計画研究を基礎に、子どもの生活環境創造のためのワークショップに挑戦していました。

そして翌97年、日本では数少ない子ども専門病院である「あいち小児保健医療総合センター」の計画設計が始まり、その研究会のメンバーに加わったことがひとつの転機となりました。小児医療の現場における生活環境を多様な専門職と議論する中で、アートが療養環境の質を変革する要素であることを知りました。療養中の子どもこそ、遊び学ぶ自由を

得ることで主体性を回復できる。患者視点に立脚した生活環境構築の可能性に、大きな期待を持つことができたのです。

同時期、名古屋大学附属病院の小児病棟で実証実験する機会を得ました。小児の療養生活を知り尽くした看護師とデザインを学ぶ学生が夢の小児病棟に向けた検討を開始し、病棟全体を動物の住む村と見立てる構想を組み立てました。ナースステーションを村役場、病室を森の動物の住まい、処置室を村の病院と位置づけ、病室入り口に発泡スチロールで家の屋根型を取り付けるなどの装飾をしました。そこで、アートが子どもたちやスタッフの笑顔を引き出すことを実感することができました（9頁参照）。

得られた成果はあいち小児保健医療総合センターの計画にフィードバックされ、建物全体を覆う街路のようなアトリウム、待ち時間を和ませるモニュメント、院内の壁面に描かれた物語「どんぐりくんとマロンちゃん」など、ユニークなアイデアが実現しました（7頁参照）。

以後、医療現場からアート制作依

頼が継続的に来るようになり、そのつど学生希望者を募り、スタッフとの話し合いの場を持ちながらデザインを行ってきました。気がつけば、東海地方を中心に30以上の病院での実績が重なりました。

## 学生参加の意義と 地域に開く病院

小児病棟での子どもたちの閉塞的な生活を目の当たりにしてカルチャーショックを受けたようです。病棟が日常風景である看護師は、健康な学生たちの驚く様子に衝撃を受けたかもしれません。病院は閉ざされた特殊な世界であって、外部の価値観、若い力、純粋な視線が環境改善の突破口として有効に機能することもわかりました。

デザインを学ぶ学生にとっては、現場で課題を発見し、依頼主の意向を受け実現可能な提案内容が問われます。現場からの厳しさと手応えのある評価を受け、実践的な訓練の場となっています。一方、医療スタッフは、その場にふさわしいデザインで療養環境が大きく向上することで、患者とその家族、ひいてはスタッフ自身が心地よく働ける場が得られるという実感を得ています。病院としては、学生の支援が、地域に開かれた病院としてのアピールになります。芸術系大学が地域の医療施設の環境向上に関与することは、大学による地域貢献活動として現場にも学生にも大きなメリットをもたらしているように思います。

Pick up  
1

## あいち小児保健医療総合センター

Aichi Children's Health and Medical Center

2001年小児病棟・小児外科病棟・NICU、2015年救急棟待合・廊下/ペイント、立体

私たちが子どもにやさしい療養環境というテーマに取り組みきっかけとなった病院です。設計の準備段階の97年に発足した「子どもの療養環境研究会」へ学生を連れて参加し、毎月、終電まで熱い議論を重ねました。そして学生たちとともにデザインおよび施工の一部に参加しました。



(左) 周辺の雑木林を連想させる「どんぐりくんとマロンちゃん」の物語を施設全体のストーリーに  
(右上) 大型検査機器への不安感をアートで払拭する (右下) にぎやかな町をイメージしたアトリウム



研究会に入ってくれたおかげで、子どもの気持ちに対する理解が進んだように思います。多様なメンバーの積極的な姿勢に、センター設立時の院長先生は「子どもことは小児科だけが考えていると思っていたが、思い違っていた」と驚いていらっしゃいました。

公共施設の多くは行政主導で進められがちですが、ここでは異なる分野の人たちが意見を交わすことで、設計だけでなく病院運営などのソフト面にも、新しい試みが入り入れられました。02年には研究会を母体とし「NPO法人子ども健康フォーラム」が発足。NPOでは研究に加え療養環境改善のための具体的な活動を展開しています。

## プロジェクトの流れ

プロジェクトごとに経緯や期間、方法、体制は異なりますが、概ね次のような流れで進めていきます。

医療関係者・設計者などからの依頼

学生参加者の募集、チーム結成

現地視察、ヒアリング、調査

デザイン検討

プレゼンテーション

デザイン修正

実施準備

現場制作

振り返り、アフターケア

### 依頼主と依頼のタイミング

医師や看護師など医療関係者からの依頼がいちばん多く、続いて設計やインテリアといった建設設計関係者、子ども支援のNPOの方からの依頼などがある。施設の新築や改修の時に声をかけていただくことが多い。建築工事で対応すべきことがらも多いため、設計初期から関わることが望ましい。

### 学生参加

参加者は研究室の学生だけでなく、広く学部内で有志を集めチームを結成。連絡調整やまとめ役のリーダーを決めながら、授業の合間に準備を進め、現場作業は夏季休暇などを利用して実施する。

### 現地視察、ヒアリング、調査

病院を訪問して関係者から要望をうかがうとともに、空間の広さや壁の素材を確認し、デザインや使用する素材の参考にする。必要に応じて利用者の行動調査や関連施設の見学なども実施する。

### デザイン検討

スケッチを重ね模型で確認しながら、チームでアイデアを出し合い検討を進める。



### プレゼンテーション

全体のコンセプトや具体的なデザイン案をまとめて提案。ここで先方からの要望や意見を聞き調整をする。

### 現場制作—使用素材や道具

塗料／安全性と施工性を考慮し水溶性の塗料を使用。ペンキがのりにくい場合は、下地剤（ジェッソ）を塗っておく。カッティングシート／粘着性のあるビニルシートで、形を切り抜いてガラスなど表面に凹凸のない平面に貼ることができる。事前に準備をしておけば現場での作業が比較的早く、時間に余裕がない場合にも便利。貼付面積が小さいとはがれやすいので注意が必要。

ビニルシート・マスキングテープ／塗ってはいけない部分にはテープなどで養生をしておく。

プロジェクター／現場で下絵を直接壁に描く方法もあるが、最近はデザイン画をプロジェクターで投影し、写す方法を取り入れている。これにより下絵作業が格段に効率よくできるようになり、タッチがそろうようになった。

ローラー／広い面を塗るのに使いやすい。早く均一に仕上げるができる。



(左) 水溶性塗料は換気できない室内でも使用できる (右) カッティングシートを使った両側から見られる窓の装飾



(左) 養生をして描き始める (右) 投影した絵を写して下絵制作

Pick up  
2

## 名古屋大学医学部附属病院

Nagoya University Hospital  
2000年 小児外科病棟・小児病棟／壁面立体・平面装飾

あいち小児保健医療総合センターの工事中、名古屋大学医学部附属病院の小児外科病棟を子ども目線で飾りつける機会を得ました。

病棟全体を「森の中の村」と見立て、ナースステーションは森の病院、病室は子どものお家とする物語をつくりました。現状復帰を条件に病棟の廊下や処置室に、屋根型の発泡スチロールや野菜のキャラクターを描いた絵を仮設的に設置しました。すると子どもたちが予想以上に喜んでくれ、看護師の皆さんからも空間が明るくなったと驚かれました。隣の小児病棟にも評判が伝わり、同様の装飾をすることになりました。

子どもたちに「好きなところ」「嫌いなところ」を事前に調査した上で、学生たちと相談し、病棟全体を村や町に見立てたストーリー性や、季節感のある自然要素の導入などを決めましたが、それらはその後の取り組みにも通じるポイントになりました。



子どもたちへの事前調査で「嫌いなところ」にあがっていた処置室も、「トマト坊主」や「玉ねぎ婦人」が壁や天井にならび、賑やかな空間に



町をイメージした小児外科病棟は、病室の入り口にカッティングシートなどでお店のように



自然や季節を感じてもらえるよう、本物の木や竹をゴシゴシと洗った後、廊下に飾った



(上) 処置室の壁には木々と架空の動物おかべんぎん (下) エレベーターホールの天井を見上げる

# 事例 1

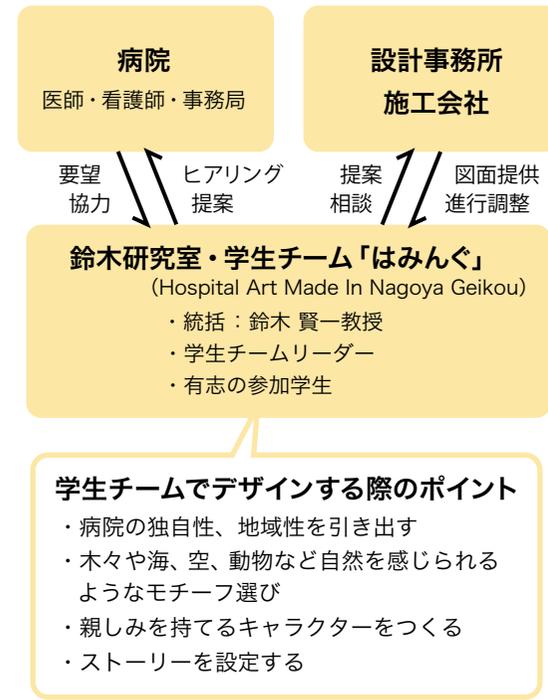
## 名古屋市立大学病院

Nagoya City University Hospital

2003年小児病棟・小児外科病棟・NICU、2005年放射線部、2007年小児外来  
ペイント、天井装飾、サイン・キャラクターデザイン

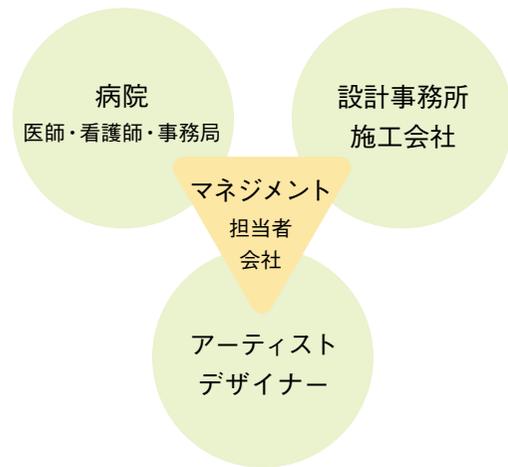
### 研究室における実施体制の例

依頼主や時期によって関わり方が変わりますが、病院側と設計施工側とのやりとりは不可欠です。また、複数の学生が動くので、その中でのまとめ役を置いています。



### マネジメントの重要性

アートやデザインによって療養環境を整備する際には、多種多様な関係者とコミュニケーションを取りながら、調整や管理をしていく必要があります。病院や設計、制作側の担当者がそうした役を担う場合もありますが、専門とする会社や人材も出てきています。このマネジメントのできる人材の育成がこの分野を広げていくひとつの鍵になるのではないかと考えています。



## 実施体制とマネジメント

実施にあたっては、病院側や設計・施工側との協力や共同が必要になります。そして具体的なアートやデザインの内容や素材、メンテナンス方法を検討するほか、予算やスケジュールの管理などさまざまな調整事項があります。加えて、参加者のモチベーションの維持や現場での注意事項の連絡など、学生チームならではのマネジメントも必要です。

多くの場合は研究室または学生チームのリーダーが関係各所と連絡を取り合っており調整をしていますが、アートマネジメント会社などが調整役として入ってくれる場合もあります。いずれにしても、アートやデザインを療養環境に取り入れる事例はまだ一般的ではないため、現場で試行錯誤をしながら進めていく部分も多くあります。



建築設計事務所の担当者と一緒に壁面のプレゼン

### マネジメントの主な項目

- **クオリティの管理**  
事前の色見本の取り寄せや試作、事後の修繕など。作家の表現は尊重しつつ、不備や全体との整合性をチェックする。
- **スケジュールリング**  
他の業者の進行は小まめにチェック。
- **外注の手配と管理**  
工事の担当区分や設置位置の確認など。
- **連絡の円滑化と共有**  
要望や課題を文書化しメンバーで共有する。
- **確認事項の明確化**  
病院の要望等は文書化し、対応も分かりやすく提示。
- **予算管理**  
重要な部分だが大学の事業としては弱くなりがち。
- **プロジェクトチームのモチベーション管理**  
環境整備や進行のフォロー。学生チームの作業にはおやつや音楽などの準備も。
- **広報活動**  
次の活動につながり、関係者の意識も高まる。

病棟・中央診療棟の建て替え時に、小児科の先生から「子どものフロアを別世界にしましょう」と要望を受け、03年に小児病棟の空間およびインターリアのデザインを手がけました。何年も病棟にいて空を見たことがない子どもたちがいると聞き、きれいな空を見せてあげたいと「宇宙」をテーマとしました。エレベーターホール天井には満点の星空、廊下には宇宙船型のサイン、病棟を見守る独自のキャラクターなどを提案しました。市や施工現場の方の積極的な協力のもと、メンテナンス等の課題をクリアしながら完成した病棟は、結果として評判を呼び、後に放射線部や小児外来のデザインも担当しました。空間の用途や担当した学生の個性によって、それぞれのデザインは異なりますが、病棟に描いたキャラクターを登場させることによって、全体のつながりを持たせました。

壁面へのペイントは恒常的な環境整備となりますが、こうした季節の行事などで空間に変化をつけることや、参加型の活動も大事にしたいと考えています。

名古屋市立大学病院では小児病棟でのペイントなどだけでなく、成人患者も往來する外来アトリウムでクリスマスイベントも開催しました。11年にはプラスチック板で制作したオリジナルのクリスマスツリーを外来アトリウムに設置し、それに飾るオーナメントを患者さんや職員さんたちに作ってもらったワークショップを実施しました。12年にはクリスマスツリーの設置のほか研究室の学生や卒業生によるピアノコンサートとジャグリングショーを開催。空間装飾に加え制作や鑑賞といった体験を通して、クリスマスの雰囲気を楽しんでいただきました。

## 名古屋市立大学病院 クリスマス イベント 2011・2012



(左・上) 2011年に作ったオーナメント。水性ペンとティッシュでしみ絵を描いた



2012年のクリスマスコンサート等の様子



大人でも狭い部屋をいやがる患者さんがいると聞き、放射線部のレントゲン室には空間に広がりが出るような絵を描いた



「うみのほし」と空間テーマが設けられた小児外科病棟は海をイメージした色やモチーフが彩る

### 共通のキャラクターと物語

物語性をつくるため、空間ごとにテーマ設定をするとともに、動物をモチーフにしてオリジナルのキャラクターを作成した。キャラクターは後に病院グッズとしてボールペンにもなった。



レントゲン室の扉には、検査の不安を軽減するためキャラクターを用いた説明イラスト



(左から) カルガルー／NICU、うももぐら／小児内科、おかべんぎん／小児外科

### 空間用途の違いと デザインの工夫

**病棟** 小児患者が滞在する生活空間。そのため遊びの要素を取り入れたり、長時間いてもくつろげる色合いを配置。スタッフが季節等に合わせ飾り付けをすることも多い。

**処置室・検査室** 診察台に横になったときに目につく天井や無機質な設備機器へ装飾することで、処置室や検査室もやさしい雰囲気になる。

**外来** 通いで診察や治療を受ける場。明るくはげますようなモチーフ・色合いを選んだほか、診察室の扉には動物のイラストの中に数字を隠し、雰囲気をやわらげた。



(左上) スタッフによる病棟装飾  
(右上) 処置室の機器も生かして  
(下) 小児外来の待合い

子どもたちとの共同  
「夢の小屋」づくりワークショップ

制作の前段階として、学生とアーティストが旧病棟を訪ね、入院している子どもたちを対象にワークショップを開催しました。壁や床一面の大きな画用紙に子どもたちがローラーや手足を使ってのびのびと絵を描き、それをアーティストがアレンジし小屋として展示したほか、子どもたちの絵をヒントに学生が絵本の制作をしたり壁画のデザインを構想したりしました。



参加した子ども・保護者・医療者の声

ほいくえんぶりに大きく絵をかけて、楽しかったです。ひさしぶりにクレヨンで絵がかけて気持ちよかったです（入院患者）

最初は人見知りしていたり、絵の具に抵抗があったのかモジモジしていたけれど、次第に慣れ結局最初から最後まで遊んでいました。病院での生活が長くなり、しゃがんだりする体勢がツライはずなのに夢中で絵の具で遊んでいたのが何よりもいいリハビリだと感じました（保護者）

集中してローラーをクルクルと自由気ままに走らせている姿!! 子どもといっしょに夢中で楽しんでいる父母の姿!! とても感動的でした。汚れを気にせず、好き勝手に行動できることの楽しさを子どもたちに与えてくださり本当に感謝しています（病棟師長）



ワークショップで出てきたキャラクターが登場する物語を学生たちが額絵として壁にペイント

アーティストの作品や  
プロの仕事の間近で見る学び

アーティストやコーディネーターとの共同やアーティストの作品に触れることで、学生たちの学びが多かった。



すべてアーティスト作品で、  
(上) あみだくじが隠れた遊べる壁画  
(左) マグネット式で動かせるトカゲの絵  
(右) 鏡面反射するアクリルレリーフ



老朽化した病棟の建て替えに合わせ、小児医療センターにアートワークを展開することになり、そのアドバイザーとして鈴木が関わりました。依頼先の病院と直接打ち合わせをすることが多いですが、ここでは設計事務所やアートマネジメント会社とともに療養環境委員会が設立されました。子どもたちの安心できる環境は、ケアをする保護者や医療者にも心地よい空間であるという考え方を軸に、打ち合わせを重ねました。

アーティストと学生たちの共同制作も実現し、プロの視点からのアドバイスや、彼らの仕事を間近で見られたことは、学生にとってより刺激的な学びの機会となりました。

入院中の子どもたちを対象にした、アーティストと学生によるワークショップでは、子どもたちの生き生きとした表情に触れ、体験を通じたコミュニケーションの有効性を実感しました。



(左) 森の動物が隠れたかくれんぼツリー (右) NICUには生命の誕生をイメージした海の絵を



(左) 小児外来プレイコーナーに花畑のペイントをする学生たち (右) 子どもたちがワークショップで描いた絵をもとに学生が制作した絵本。病院に寄贈し新病棟にあるシンボルツリーの本棚に置かれた

# 事例 3

## 名古屋第二赤十字病院

Japanese Red Cross Nagoya Daini Hospital

2011年 小児外来  
ペイント、立体装飾、絵本

改修に合わせて小児外来にアートを取り入れました。看護師さんから提案いただいた物語は、お猿など動物たちが登場するストーリーでした。子どもの空間を考えると、自然や動物の物語を考えることが多いのですが、医療者も共通したものを求めているのだと感じました。

看護師さんのスケッチをもとに、学生が具体的にデザインし、模型やイラストなどをもとに病院側と打ち合わせを重ね、進めていきました。子どもの持つ治癒力を引き出せる環境をと、看護師さんだけでなく事務の方も皆さんポジティブにアイデアや意見を出してくださり、実際のペイントの現場では学生たちに混じって絵筆を取る医療スタッフの姿も見られました。こうした病院側の積極的な姿勢は、関わる学生たちのやる気向上につながるとともに、その後の空間の活用のされ方にも違いが出てくるように思います。



(上) 動物の足跡をたどって診察室へ。電光掲示板はポストに (右上) 家具業者とともに家具も提案した (右) 吸引コーナーも明るく (下) ペイント前の待合



### イラストや模型でイメージを伝える

学生のデザインを模型に立ち上げて提案する。具体的にイメージしやすく、模型を見ながらまた詳細を検討していく。



お猿のもんばちが種を見つけ、それを動物たちが育てていく物語。最終的に絵本になった

### 絵本に物語とメッセージを込めて

絵本の最後のページに掲載したメッセージ

外来にくるみんなが、治療や検査にがんばってもらえるように、すこしでも楽しめるような空間にしたいという思いでつくりました。このもんばちのストーリーは、「みんなでがんばってのりこえれば、きっといつか花が咲くよ。花が咲いたあとも、種になって、また花が咲く。ずっとずっといのちは続いていくんだよ。」というみんなの思いがこめられています。



現場は3日半と短期作業だったが連日20名以上の学生が参加し見事小児外来が別世界に。真っ白だった壁や床が動物や木々ににぎやかになり「びっくりした」「癒される」との声が上がった



子どもたちの目線にあわせて床近くにも絵を



医療スタッフも学生とともに絵筆を握った

【施設概要】敷地面積 34,296.28㎡、建物延べ面積 76,271.06㎡、病床数 812、設計 山下設計

事例 4

# 余語こどもクリニック

Yogo-Kodomo-Clinic

2001年待合、診察室  
ペイント、サイン計画、ロゴデザイン



エントランスから見た待合。オリジナルの本棚の曲線と森の動物たちがやわらかく迎えてくれる



(上) デザイン画をプロジェクターで投影して効率的な下絵作業。医師の娘さんも参加してくれた (右上) サインもプリントではなく手描きで (右下) 床近くに描かれたふくろう



名古屋市立大学病院の小児病棟に在籍されていた女医さんから、個人クリニックの建て替え時に声をかけていただきました。北欧デザインが好きだという先生の要望を受け、北欧をイメージした森や動物などをモチーフとしました。壁や扉一面に彩色するなどメリハリのある色の使い方をしつつ、シンプルな線とやさしい色合いのおかげで、さわやかで落ち着いた雰囲気になりました。

あちこちにいる動物や草木はそれらを見つかる子どもたちの遊び心を誘うとともに、子どもたちを見守り励ましていくようでもあります。それは医院の先生はもちろん、この活動をする私達の思いとも重なります。

開院後、先生から「待合が落ち着いていて、とても静かなのです。以前の建物のときは子どもが走り回ることがよくあったのですが」というお話を聞き、空間の持つ力を改めて考えさせられました。

事例 5

# 豊橋市民病院

Toyohashi Municipal Hospital

2008年小児病棟・NICU、2014年小児病棟  
ペイント、カッティングシート

08年の新築時に壁画などを施した小児病棟の院内移転にともない14年に再度ペイントを手がけました。どちらの活動も、子どもが病院でお世話になった家族の方たちの団体が依頼主となり、チャリティコンサートでの収益などが原資となりました。

豊橋の伝統、鬼祭りにちなんで7匹の虹色の小鬼があちこちでかくれんぼしている物語を表現。小鬼たちの性格は病棟保育士さんが考えました。

長い廊下や天井など広範囲の作業で学生の参加人数も多く、何度も共通理解をしながら進めました。皆さんの応援に支えられた4泊5日の制作合宿は、学生たちにとってよい思い出になったのではないのでしょうか。

スタッフステーション前の円柱は大樹に変身しましたが、あえて未完成な状態とし、葉の描き足しを病院スタッフがお任せしました。現場の方が自ら手を加えていただく意味はとても大きいと思うからです。



(上) カウンター下に7匹の小鬼たち。目線の低い子どもたちにもよく見える (下) 約20名の学生たちが参加。処置室や廊下の壁だけでなく天井にもペイントした



(左) スタッフステーション前の円柱は樹に。病院スタッフの皆さんに葉っぱの描き足しを頼んだ (右) 地元豊橋の鬼祭りにちなんだ小鬼のキャラクター

事例

6

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

Toyama Prefectural Rehabilitation Hospital & Support Center for Children with Disabilities

2015年 施設全体／ペイント、プリント壁紙、立体壁面、立体モビール、屋外彫刻、絵本

県や設計・施工会社のほかアートマネジメント会社と共同し、設計段階から関わり自由な提案をさせていただいたためずらしい事例です。アートのために予算を確保いただき、広範囲に一貫したストーリーで多様な作品を取り入れていただきました。

関係者の皆さんには初期の段階で、あいち小児保健医療総合センターのストーリー設定や具体的なアート内容などを視察いただきました。

ここでは、コエルというカエルが旅をする場面を様々な表現で展開しましたが、折々に設計者からアドバイスをいただいたり、施工方法を業者の方に相談したりするなど、多くの方の力を得て形になりました。

天井高12mの交流ロビーには、富山県産材の木のモザイクアートでつくった大木や、越中和紙を使った気球のモビールで彩ったほか、壁面に富山の風景プリントするなど、随所に地域性を出しました。



5mmのベニヤ板にアクリル塗装したものを300枚用意



プリント壁紙には北陸新幹線と北陸の風景を取り入れた

多様なアートとそれらをつなぐストーリー

「コエルのにじのたび」という物語を広範囲に渡るアートの拠りどころとした。主人公であるカエルのキャラクターが施設内のあちこちにいる。



竣工記念に発行した絵本



エントランスや浴室にはモザイクタイル



中庭や玄関にはブロンズ鑄造の屋外彫刻



左はリノリウム象嵌を施した交流ロビーの床、右は塩ビ板にプリントをしたCT検査室の天井

アートマネジメント会社との共同

アートマネジメント会社（株式会社アールアンテル）は、内容に不備が無いかのチェックや色見本の手配など細やかなサポートをしてくれるとともに、こちらの表現を尊重してくれる姿勢など学ぶべき点が多くありました。ペイント部分では富山大学の学生も参加し、様々な共同が実った事業となりました。



富山大学の学生と共同したペイント



プリント壁紙の色見本

右は気球に乗ってカエルのコエル君が旅するシーンが表現された交流ロビー

# 研究室で関わったヘルスケア・アート活動の一覧

子どもの療養環境研究会への参加から約20年間の間に31施設40箇所で開催させていただきました。

2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2003	2002	2001	2000
名古屋市営地下鉄名古屋駅 授乳室／ペイント・立体／既存	やまかわこどもクリニック 待合・診察室・処置室／ペイント・壁面立体・サイン・立体／改築 藤田医科大学病院 小児外来・小児病棟／ペイント・壁面立体・カッティングシート／新築	名古屋千種保健所 待合・診察室／ペイント／既存 オリバーショールム展示場／ペイント・天井装飾／既存 ほその外科・小児科 階段・待合／ペイント／改築	名古屋市東部医療センター 小児外来／ペイント／新築 名古屋市重度心身障害児者施設ティンクルなごや 廊下／ペイント・ロゴデザイン／新築 岡崎第二青い鳥学園 小児科外来／壁紙プリント／新築 あいち小児保健医療総合センター 救急棟／ペイント・立体／新築 富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター 全体／ペイント・壁面立体・壁紙プリント等／新築	豊橋市民病院 小児病棟／ペイント・カッティングシート／院内移転	岩国医療総合センター 小児科病棟・小児外来／ペイント／新築	埼玉医科大学周産期総合センター 総合周産期母子医療センター廊下／壁紙プリント・壁面立体／新築 名古屋市立大学病院 エントランス／クリスマスイベント／既存	さくらんぼ保育所 保育園／ペイント／新築 余語こどもクリニック 待合・診察室／ペイント／新築 名古屋第二赤十字病院 小児外来／ペイント・立体・絵本／改築 名古屋市立大学病院 エントランス・小児病棟／クリスマスイベント／既存 名古屋市西部医療センター NICU・GCU・小児救急外来・小児病棟・小児外来／ペイント／新築	名古屋大学付属病院リニユーアル 小児外科病棟／ペイント／既存 名古屋児童福祉総合センター リハビリ／ペイント／新築	緑の森こどもクリニック 小児外来／ペイント・壁面立体／新築	豊橋市民病院 小児病棟／ペイント・天井装飾／新築 名古屋第一赤十字病院 小児病棟・小児外来・NICU／ペイント・絵本・ワークショップ／新築	浜松赤十字病院 小児病棟／ペイント・立体／新築 たひようこどもクリニック 小児外来／ペイント／新築 名古屋市立大学病院 小児外来／ペイント／新築	名古屋市立東市民病院 小児外来／ペイント／既存	名古屋市立大学病院 放射線部／ペイント／既存	大雄会病院 小児外来／ペイント・立体／新築 名古屋市立大学病院 小児病棟・小児外科病棟・NICU／ペイント・天井装飾・サインデザイン等／新築	いなべ総合病院 小児外来／ペイント／新築 津島市民病院 小児外来／ペイント／新築 ヨナハ・クリニック 小児外来／ペイント／新築	あいち小児保健医療総合センター 病院全体／ペイント・立体／新築 三好町立三好病院 小児外来／ペイント／新築	名古屋大学附属病院 小児外科病棟／壁面立体・平面装飾／新築 名古屋大学附属病院 小児病棟／壁面立体・平面装飾／新築

## 愛知県外 6施設

- いなべ総合病院 (三重県いなべ市)
- ヨナハ・クリニック (三重県桑名市)
- 浜松赤十字病院 (静岡県浜松市)
- 埼玉医科大学周産期総合センター (埼玉県川越市)
- 岩国医療総合センター (山口県岩国市)
- 富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター (富山県富山市)

## 愛知県内 10施設

- あいち小児保健医療総合センター (大府市)
- 三好町立三好病院 (西加茂郡三好町)
- 津島市民病院 (津島市)
- 大雄会病院 (一宮市)
- 豊橋市民病院 (豊橋市)
- 緑の森こどもクリニック (岡崎市)
- 岡崎第二青い鳥学園 (岡崎市)
- オリバー (岡崎市)
- ほその外科・小児科 (江南市)
- 藤田保健衛生大学病院 (豊明市)

## 名古屋市内 15施設

- 名古屋大学附属病院 (昭和区)
- 名古屋第二赤十字病院 (昭和区)
- 名古屋市立大学病院 (瑞穂区)
- 名古屋市立東市民病院 (東区)
- たひようこどもクリニック (北区)
- さくらんぼ保育所 (瑞穂区)
- 名古屋第一赤十字病院 (中村区)
- 名古屋児童福祉総合センター (昭和区)
- 余語こどもクリニック (昭和区)
- 名古屋市西部医療センター (北区)
- 名古屋市東部医療センター (千種区)
- 名古屋市重度心身障害児者施設ティンクルなごや (北区)
- 名古屋千種保健所 (千種区)
- やまかわこどもクリニック (西区)
- 名古屋市営地下鉄名古屋駅 (中村区)

不安感 =  $\frac{\text{知らないこと}}{\text{知っていること}}$

### 病院の環境デザイン

#### 1. 人にやさしい環境

利用者を主人公にしたデザイン  
利用者が参画するデザイン

#### 2. 感情移入ができる環境

機能的な空間 (SPACE) ではなく、  
愛着の感じられる場所 (PLACE) の構築

#### 3. 自然に受け入れられる環境

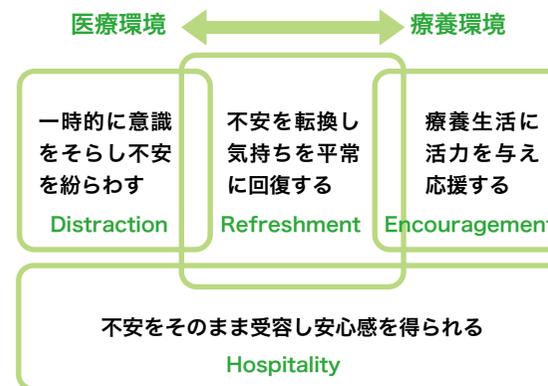
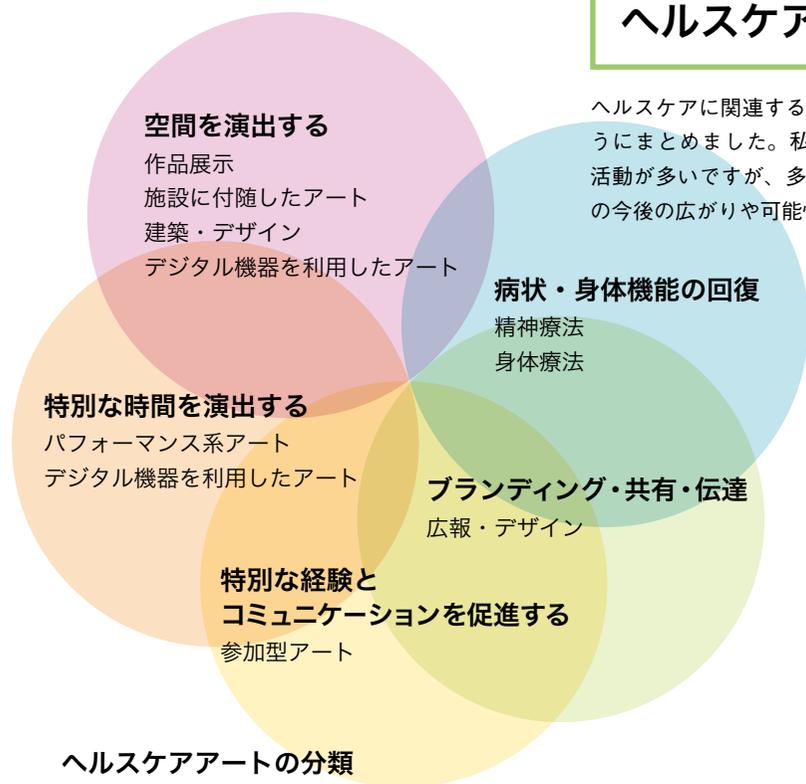
環境が患者に応援メッセージを発信している

病院に入るととても不安になるのは、知らないことが多いからです。知っていることが多いと、不安感は消えます。アートやデザインによってこの不安感を減らすことができます。それから病院ではどうしても受け身であることが多くなりますが、何かしら選択できる場面や感情移入ができるといった自主的になれる環境づくりに、アートやデザインが力を発揮すると期待しています。病院を人にやさしい環境にするには、機能的なだけの空間 (SPACE) ではなく愛着を持てる場所 (PLACE) にしていかなければなりません。

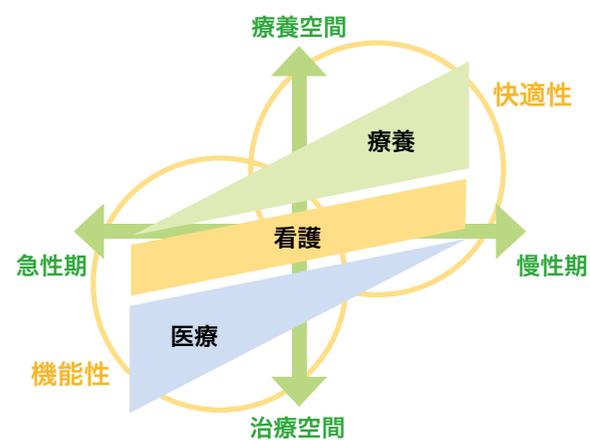
病院に実現してみたいと思うことが3つあり、ひとつは「泣いて叫べる部屋」。屋上で泣いたり叫んだりしている方がいるという話を聞いたことがあります。そういう感情を吐露できる空間がどこかに必要ではないでしょうか。サンドバックなどに思いをぶつけるのもいいかもしれません。2つ目は「お医者さんの来ない部屋」。もちろん医師の指示や話はしっかりと聞くのですが、来ない部屋があってもいいでしょう。最後は「祈る部屋」。キリスト教系の病院ではチャーチを併設しているところもありますが、公立の病院にはほぼ宗教色はありません。しかし、誰も祈るような気持ちは持っていらっしゃるように思います。

### ヘルスケアアートの分類

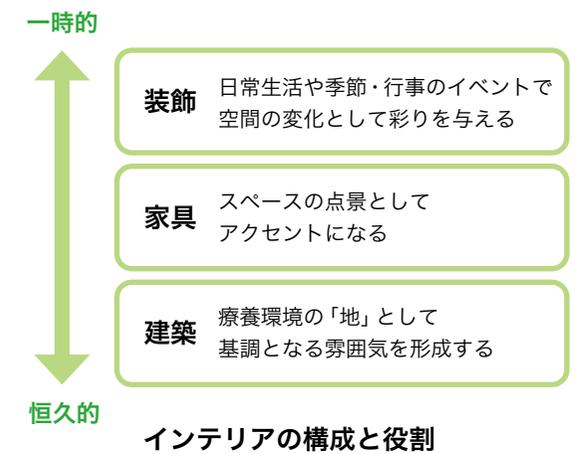
ヘルスケアに関連するさまざまなアート活動を左図のようにまとめました。私たちは左上の「空間を演出する」活動が多いですが、多様な手法と効果があり、この分野の今後の広がりや可能性に期待をしています。



アートによる Human Centered Design



医療と療養の環境デザイン



### アートの役割と期待するもの

現場で活動をしながら、ヘルスケアアートの役割について考えてきたことについて、研究室の学生の一人が次のようにまとめました。

#### 療養環境におけるアートの役割

- 不安を受容する Hospitality
- 不安を紛らわす Distraction
- 平常心を取り戻す Refreshment
- そっと応援する Encouragement

また、生きるか死ぬかという救急時とリハビリなど回復期とでは、アートの役割も当然違ってくると考えています。つまり、医療的な性格の強い環境と療養的な性格が強い環境とでは、アートの役割に少し整理が必要だということです。(図. 医療と療養の環境デザイン参照)

環境を考えるときには、ベースとしての雰囲気をつくる建築空間と、家具のように後から設置されるもの、看護師さんや患者さんが作品を飾りつけるような装飾など、いくつかの段階に分けることができます。それぞれを誰がどのように決めていくかや、全体をバランスよく考えることなどが、考える一つのポイントとなります。そのほか病院などの施設にはサインなどの掲示が多く、それらが雰囲気をつくる要素にもなっているため、うまく利用できる効果的です。

病院には硬い要素が多いですが、アートやデザインによって別の要素を取り入れることができます。医療の邪魔にならないように留意しつつ、積極的に考えていくべきだと思います。



このとき、「ユーモア・物語」「色味・自然素材」「シンボル・キャラクター」「家庭的・自分のもの」「奥行き・広がり」などのキーワードが具体的な展開のヒントになると考えています。

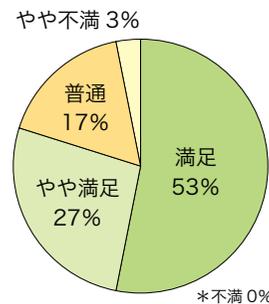
## 施設利用者へのアンケート

### 津島市民病院でのアンケート

小児科の付添いおよび耳鼻咽喉科（小児科と待合を共有）を利用する患者と付添いを対象に、空間デザインを施した待合室全体の環境と診察室等の壁画について、5段階評価と自由形式で記入してもらった。

■実施場所 津島市民病院小児外来 ■実施期間 2003年3月3～14日  
 ■アンケート総数 66名（内訳：小児科付添い34名、耳鼻咽喉科患者14名、耳鼻咽喉科付添い18名） ■研究発表 深津真理、永利紀美子、鈴木賢一（名古屋市立大学芸術工学部）、伊藤邦彦（津島市民病院医療行政推進室）、近藤祥子（津島市民病院看護部長）：小児外来壁画装飾と利用者評価に関する研究、第4回子どもの療養環境研究発表会、2003年6月

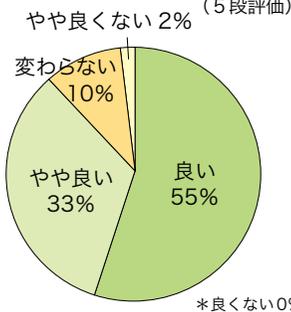
Q. 待合室の壁画アートをどのよう  
 にお感じになりますか？（5段階評価）



自由記述

優しい色づかい、かわいらしい絵で癒される。待ち時間も子供が飽きない（7歳耳鼻咽喉科患者の付添い女性）／子供と絵を見ながら会話ができる。待ち時間を退屈しないでいられる（2歳小児科患者の付添い女性）／子供の不安が少し解消される気がするため（6歳小児科患者の付添い女性）／メルヘンの世界にふれて心がはれる思いで緑色が心に残りました（耳鼻咽喉科患者の女性）／アニメのキャラにしてほしい（7歳小児科患者の付添い女性）／耳鼻科としては落ち着きがない。静かな病院らしいものがほしい（耳鼻咽喉科患者の付添い女性）

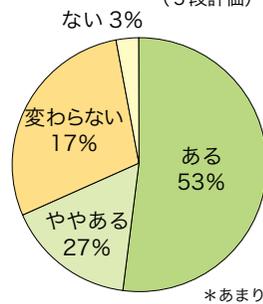
Q. 待合室の壁画アートに対するお  
 子さまの反応はいかがでしたか？  
 （5段階評価）



自由記述

機嫌が悪いとき気をそらすことができる（0歳・2歳患者の付添い女性）／チョウやリンゴなどのかずを数えたり、物語を作ったり想像を育める（10歳患者の付添い女性）／泣いてもアツと指さしたら泣きやみました（1歳患者の付添い女性）／白い壁は小さな子には怖さを与えるように思います（16歳患者の付添い女性）

Q. 診察室・処置室・点滴室のアー  
 トは治療時に効果はありますか？  
 （5段階評価）

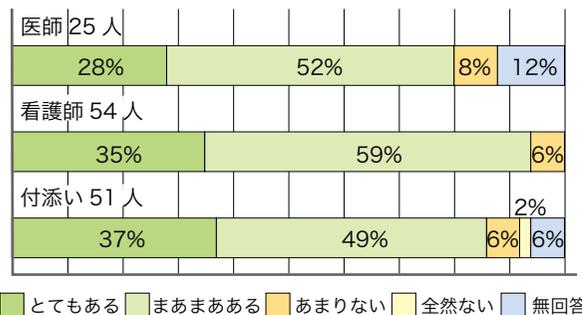


### 名古屋市立大学病院でのアンケート

病院内における倫理委員会での了解を得た上で付き添いに対し質問表を手渡し、その場で記入を依頼した。看護師と医師については病棟経由で質問紙票を回収した。質問内容は1) テーマの認知、2) 通路部分の評価、3) 諸室に対する評価、4) 壁画装飾の有効性や具体的な効果、である。ここでは4)についての結果を掲載する。

■実施場所 名古屋市立大学病院新病棟 小児関連病棟 ■実施期間 2005年2～4月  
 ■アンケート総数 130名（内訳：医師25名、看護師54名、付添い51名）  
 ■鈴木賢一、岡庭純子：小児病棟における壁画装飾の印象と効果に関する研究、2008年3月日本建築学会会計系論文集

Q. デザインの効果の有無



Q. デザインの効果（複数回答）

	医師 20人	看護師 51人	付添い 44人
検査や治療の不安を軽減する	25.0%	23.5%	38.6%
患者の気持ちが見えるようになる	85.0%	80.4%	68.2%
治療に対して前向きになれる	15.0%	5.9%	11.4%
付き添いやスタッフが明るくなる	40.0%	37.3%	47.7%

## 施設利用者の声

これまでヘルスケア・アートに携わったいくつかの施設で利用者にヒアリングをしました。

### あいち小児保健医療総合センター 保育士（30代女性） 「遊びでストレス発散は大事」

装飾は病棟や手術室を案内するオリエンテーションの時に活用しています。例えば、描かれた動物の名前でその部屋を示したり、「（病院のシンボルである）どんぐりくんやマロンちゃんがどこにいるかな？」と会話をしたりして、不安を軽減するように配慮しています。要望を言えば、ゲームやクイズに使えたりする絵があるといいですね。外来に最近、肥満で来る子が多く「散歩してらっしゃい」ということがあるのですが、そういうときに壁面の絵に宝探しなどの仕掛けがあると、子どもたちも動きやすいと思います。他にあまり道具がなくても遊べるような仕掛けがあるとスタッフも助かります。遊びで入院生活のストレスを発散させることも、私たち保育士の大事な仕事なので。

### 津島市民病院 小児外来 看護師（50代女性） 「絵に意識を向けてパッと診察を」

小さいお子さんには「うさぎさんの方を向いてね」とか「リンゴいくつあるかな？」など、絵を使って話しかけています。絵に意識を向けているうちに、パッと診察や処置が終えられたりするんです。

### 津島市民病院 小児外来 看護師（40代女性） 「怖いイメージを和らげる」

「病院が怖い」というイメージを、絵によって和らげられていると思います。患者さんだけでなく保護者や患者さんの兄弟も喜んでくれ、国（厚生省）の病院機能評価委員会の方にも見ていただきましたが反応よかったですよ。モチーフは動物や果物など子どもや保護者の方がすぐに分かるものと、会話のネタになりやすいですね。こうした装飾は、点滴とか心臓のエコー検査とかあまり痛くない治療のときに、子どもたちの気を紛らわせることができ、効果的だと思います。

### 名古屋第一赤十字病院 小児医療センター 医師（50代男性）

#### 「母親の安心が子どもの安心に」

病棟は子どもたちだけでなく母親や思春期の子どもたちもいるし、また長期滞在する際には合わないのではないかと、大人でも心地よいと感じられる空間づくりを希望していました。母親などケアする人が安心して、それが子どもたちの安心にもつながっていきますから。

### 名古屋第二赤十字病院 小児患者付添い（40代女性）

#### 「子どもとの会話のきっかけに」

息子の付き添いで通っていますが、ある日、急に雰囲気もすごくよくなりました。壁や扉にかわいい絵が描いてあり、おしゃべりな雰囲気、窓にこう葉っぱのシールが貼ってあるだけで、全然空気が変わるのです。「今日ライオンさんの部屋だよ」と子どもとしゃべることもできますし、感激しました。

### 名古屋市立大学病院 小児病棟 看護師長（50代女性） 「絵で患者の気を紛らわす」

子どもたちが反応するのはやっぱり動物とかキャラクターですね。大きな絵の場合、子どもたちには下の方にある絵しか目に入りにくいみたいですが、大人も楽しんでいるのでいいと思います。処置室の絵は治療の際に「ね、あれ見てみて」と話しかけて患者の気を紛らわすことに使ったりしています。一瞬泣き止んだときにさっと治療したりします。

### 名古屋市立大学病院 小児病棟患者の付添い（30代女性） 「かわいくって楽しい雰囲気」

すごくかわいくって、楽しい雰囲気ですね。ほかの病院のイメージってちょっと暗いイメージだったのに。外来の床に描かれた魚の絵を子どもが楽しそうにたどってました。親としては子どもがあまりうろろうろするのも心配なんですけど、でもやっぱり楽しい雰囲気の方がいいですね。

## 参加学生の声

### 大学の課題とは異なる もう一步踏み込んだ考え方を学ぶ

花井 雅敏 9期生 生活環境デザイン学科



この活動と大学の課題との一番の違いは、残るものだという事です。例えば、耐久性のことを考えながらの素材選びは大変でした。また、長く残り多くの人の目に触れるので、モチーフ選びも難しかったです。蓮の花を描こうとしたときに、それは死を連想させてしまうのではないかと、という議論が持ち上がった。そういうもう一步踏み込んだ考え方が出来るようになり、いい経験でした。

大きい作品だからこそその共同作業の難しさも感じました。例えば、授業に課題にバイトにとそれぞれ予定があり、なかなか集まる事ができない。そこで、大筋が決まってるからいつでも作業できるよう、担当を分けたり工夫しました。それでもリーダーには負担が沢山かかり苦労をかけたりましたが、やっぱりみんなでの作業は楽しかったです。専攻の違う子が集まってくるので、それぞれの得意なものを、例えば僕はプロダクトデザイン専攻なので車の絵を描いたりしました。辛いときも楽しいときも、誰かと一緒にというのは個人では味わえない喜びでした。

何度か参加し、その中で藤田医科大学の小児科での活動は、最初のコンセプト提案の会議から同輩後輩たちと関わらせて頂きました。病院で生活する子どもたちに合う壁画、それを実現させるためのクオリティ、描き方について話し合うのは簡単ではありませんでした。しかし、自分たちのデザインが実際に形になる達成感、病院の利用者の方が絵を見て喜んだり褒めてくださることの喜びの方が勝っていました。

この活動は実際に現場で絵を描くことで、その施設の人たちと交流でき、病院で生活する人や働く人たちについて深く考える機会が沢山ありました。自分の仕事が誰かを笑顔にできているか、相手を想った作品になっているかを感じることが出来る為、病院を利用する人たちだけでなく、私たちにとっても意義がある活動だと思います。

後日、祖母が首を骨折し、元々病院嫌いの祖母でしたが、入院先が藤田医科大学と知ると「孫が描いた壁画を見に行ける」と快く入院してくれました。自分の成長だけでなく、家族の治療の手助けにもなりました。

### 実際に形になる達成感と 交流を通して使う人を思いやる時間

松下 凌子 21期生 建築都市デザイン学科

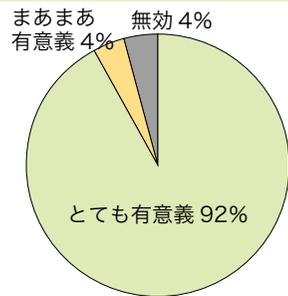


## 参加学生へのアンケート

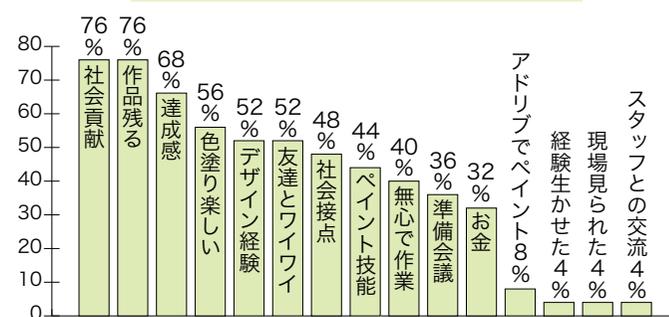
2015年8～9月に、ペイントに参加した学生にLINEのグループで意識調査を行ったところ25名から回答を得た。

高野真悟、鈴木賢一：大学生による医療・福祉施設におけるヘルスケア・アートの取り組みに関する研究—建築計画研究室による18年間の継続的実践を通じて、2018年度建築学会東海支部研究集会にて発表

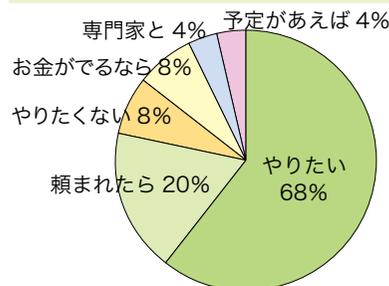
#### Q1 ペイントに参加して有意義でしたか。



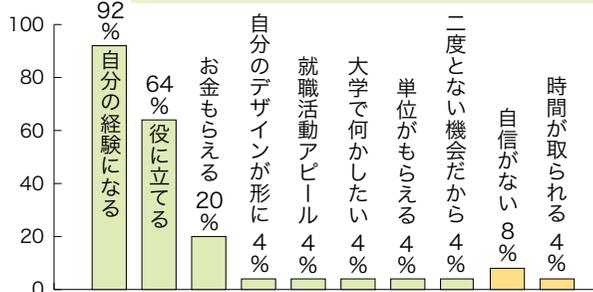
#### Q2 どんなことが有意義でしたか。(複数回答)



#### Q3 今後、デザインに参加したいですか。



#### Q4 参加したい(したくない)理由(複数回答)



### 自分が楽しんでできることが 人をちょっとだけ幸せに

野地 恵梨子 10期生 都市環境デザイン学科



学部1年生の春休みに東市民病院での壁画装飾に参加したことからはじまり、気づけば長期休みごとどこかで絵を描いていることになりました。これまで5つの病院+1つの保育所での壁画装飾に関わりました。

どうしてこうもこの活動に参加し続けているかというと、純粹に絵を描くことの楽しさ。そして、自分が楽しいと思ってやれることが、人をちょっとだけ幸せにするかもしれないというほんわりとした気持ち。また、実物大の空間づくりに関わり、それが出来上がったときの達成感。そんないろいろな、やさしくて楽しくて嬉しい気持ちのおかげだと思います。自分が描いたもので、泣いてる子が笑ってくれたりするのかな、なんて。そんなことを考えながら、お絵描きをしています。

そしていつか自分が母になったとき、自分の子どもを、自分が絵を描いたところに連れて行ってみたいですね。「これ、お母さんたちが描いたんだよ」なんて言えたらいいなと密かに思っています。

- 鈴木賢一：小児病棟における患者と家族のための環境整備の試み、東海病院管理学会年報平成12年度号、pp.33-42、2001年9月
- 永利紀美子、鈴木賢一、坂戸尚子：三好町民病院小児科外来壁面装飾の効果と反響、第3回子どもの療養環境研究発表会、p.9、2002年6月
- 鈴木賢一、戸蒔創、長嶋正實：小児医療における壁面装飾の可能性と今後の課題、第3回子どもの療養環境研究発表会、p.11、2002年6月
- 坂戸尚子、松野朱央子、鈴木賢一、今井正次：入院中の子どもの行動と病院環境評価 - 小児慢性疾患病棟の病棟計画に関する考察 その1、平成14年度日本建築学会大会学術梗概集（北陸）、pp.189-190、2002年8月
- 深津真理、永利紀美子、鈴木賢一、伊藤邦彦、近藤祥子：小児外来壁面装飾と利用者評価に関する研究、第4回子どもの療養環境研究発表会、pp.7-8、2003年5月
- 永利紀美子、鈴木賢一：小児外来壁面装飾と利用者評価に関する研究、平成15年度日本建築学会大会学術梗概集（東海）、pp.415-416、2003年9月
- 永利紀美子、鈴木賢一、篠原佳則：壁面装飾における療養環境の構築とその意味、第5回子どもの療養環境研究発表会、p.5、2004年6月
- 篠原佳則、大石次雄、鈴木賢一：あいち小児保健医療総合センター放射線診療部での壁面装飾の効果、第6回子どもの療養環境研究発表会、pp.19-20、2005年6月
- 岡庭純子、鈴木賢一：小児病棟における壁面装飾に対する利用者評価に関する研究 - 名古屋市立大学でのケーススタディー、日本建築学会東海支部研究報告集 vol.44、pp.549-552、2006年2月
- 岡庭純子、鈴木賢一：小児病棟における壁面装飾に対する利用者評価の違いに関する研究、平成18年度日本建築学会大会学術梗概集（関東）、pp.69-70、2006年9月
- 岡庭純子、鈴木賢一：子どもの療養環境におけるインテリアデザイン、第8回子どもの療養環境研究発表会、pp.40-41、2007年6月
- 鈴木賢一、戸蒔創、鈴木悟、加藤稲子：患者と家族の包括的ケア環境に関する研究、名市大特別研究奨励費研究成果報告、pp.69-70、2007年8月
- 鈴木賢一：小児と家族のための療養環境デザイン、東海病院管理学会年報平成18年度号、pp.65-69、2008年3月
- 岡庭純子、鈴木賢一：学生による病院の壁面装飾プロジェクト、第9回子どもの療養環境研究発表会、pp.10-11、2008年6月
- 岡庭純子、鈴木賢一：小児患者による病棟環境を対象とした写真分析、平成20年度日本建築学会大会学術梗概集（中国）、pp.481-482、2008年9月
- 岡庭純子、鈴木賢一：学生とアーティストの協働による子どもの療養環境整備の報告、日本建築学会東海支部研究報告集 vol.47、pp.509-512、2009年2月
- 岡庭純子、油田野花、鈴木賢一：小児病棟における子どもの療養環境づくりの実態—東海4県の総合病院を対象として—、日本建築学会東海支部研究報告集 vol.48、pp.361-464、2010年2月
- 岡庭純子、鈴木賢一：小児病棟における看護師のキャプション評価からみた子どもの療養環境整備に関する研究、平成23年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.299-300、2011年8月
- 錦見綾、鈴木賢一：Hospital Hospitality Houseの全国運営実態調査、平成24年度日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.421-422、2012年9月
- 高野真悟、鈴木賢一：病院におけるアートの導入と運用に関する研究、平成26年度日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）、pp.85-86、2014年9月
- 高野真悟、田仲弘明、鈴木賢一：医療施設におけるホスピタルアートの取組みに関する研究、平成29年度日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）、pp.63-64、2017年8月
- 高野真悟、阿部順子、鈴木賢一：英国の病院におけるArts in Healthに関する研究、日本建築学会東海支部研究報告集 vol.56、pp.461-464、2018年2月



**名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 鈴木 賢一 研究室**  
 学校や病院、まちづくりなど子どもを取り巻く環境デザインの研究・実践に取り組んでいます。  
 研究室 HP <http://www.sda.nagoya-cu.ac.jp/ken/>  
 ブログ「山に登るさかな」<http://suzukenblog.blog24.fc2.com/>  
**鈴木 賢一**  
 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 教授  
 NPO 法人子ども健康フォーラム 理事  
 なごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクト実行委員長

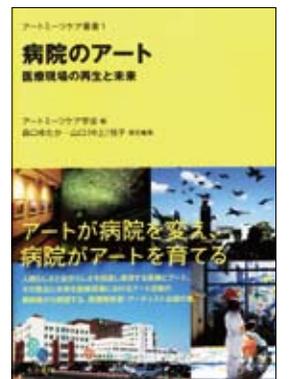
## 研究活動の主な業績

### 書籍

鈴木賢一著『子どもたちの建築デザイン 病院・学校・まちづくり』  
 農山漁村文化協会、2006年7月

### 評論

- 鈴木賢一：「子どもの入院療養を支える環境」、芸術工学への誘いVI、岐阜新聞社、pp.226-244、2002年3月
- 鈴木賢一：無言のホスピタリティー（小児のための療養環境デザイン）、Neonatal Care 2005 vol18 no.8、2005年7月
- 鈴木賢一：小児医療とアメニティ、小児内科 vol.38 No.4、2006年4月、pp.807-810
- 鈴木賢一：提案しますこれからのNICU-人と環境の柔らかな関係-、近畿新生児研究会会誌第15号、pp.38-43、2006年10月
- 鈴木賢一：子どもの療養環境デザイン、医療福祉建築 NO.181、日本医療福祉建築協会、pp.6-7、2006年
- 鈴木賢一：病院環境のヒューマナイジング—学生によるホスピタルアート活動を通じて、『病院のアート 医療現場の再生と未来』アートミーツケア学会編、生活書院、pp.62-76、2014年6月



### 学術論文

- 鈴木賢一、岡庭純子：小児病棟の壁面装飾の印象と効果に関する研究、日本建築学会計画系論文集 No.625、pp.511-518、2008年3月
- 高野真悟、阿部順子、鈴木賢一：英国の病院のArts in Healthの概念と活動組織に関する研究 ロンドンの先進的な3病院の事例から、日本建築学会計画系論文集 No.755、pp.87-96、2019年1月

### 口頭発表

- 渡辺芳夫、山下一味、神谷やす子、林るみ子、浅井普久子、宮沢裕子、河合亮子、益満留美、三浦清世美、水野智恵子、坂戸尚子、永利紀美子：名古屋大学小児外科病棟における環境改善の試み、第1回子どもの療養環境研究発表会、p.9、2000年5月
- 坂戸尚子、鈴木賢一：小児病棟における患者と付添いによる生活行動と環境評価調査—子どもの療養環境に関する研究その3、平成12年度日本建築学会大会学術梗概集（東北）、pp.41-42、2000年9月
- 坂戸尚子、鈴木賢一：小児外科病棟における環境改善の試みと評価—子どもの療養環境に関する研究その4、平成12年度日本建築学会大会学術梗概集（東北）、pp.43-44、2000年9月
- 坂戸尚子、鈴木賢一：小児病棟におけるインテリア環境整備前後の環境評価 - 子どもの療養環境に関する研究 その5、日本建築学会東海支部研究報告集 vol.39、pp.569-572、2001年2月
- 永利紀美子、坂戸尚子、鈴木賢一、星野三生子：患者に優しい環境デザイン - 三好町民病院小児科外来 -、第2回子どもの療養環境研究発表会、pp.6-7、2001年6月
- 坂戸尚子、鈴木賢一：小児病棟におけるインテリア環境改善の試みと利用者評価 - 子どもの療養環境に関する研究その6、平成13年度日本建築学会大会学術梗概集（関東）、pp.307-308、2001年9月

# アートで もっと 療養環境を元気に!!

## なごやヘルスケア・アートマネジメント 推進プロジェクトとは

「平成30年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業」に名古屋市立大学から応募していました「未来につなぐヘルスケア・アートマネジメント人材育成事業—医療福祉施設の環境向上を支援する名古屋モデルの全国発信を目指して—」が採択されました。

この事業では、社会的包摂の視点から、医療福祉施設などヘルスケアの現場におけるアートの必要性・有用性の啓発とともに、そのアートマネジメントのできる人材育成や組織構築の基盤づくりをしていきます。医療系・人文社会系・芸術工学系を擁する名古屋市立大学の人材と、20年以上にわたる芸術工学部でのホスピタルアートの実績を活かし、幅広く名古屋市関連機関・NPO等と連携し、アートによる医療福祉環境の向上を目指します。

なごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクト実行委員長  
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 教授  
鈴木 賢一

### なごやヘルスケア・アートマネジメント 推進プロジェクト事務局

〒464-0083 名古屋市千種区北千種 2-1-10  
名古屋市立大学北千種キャンパス内  
healthcare\_art@sda.nagoya-cu.ac.jp  
<https://healthcare-art.net>



大学から



平成30年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業  
未来につなぐヘルスケア・アートマネジメント人材育成事業  
医療福祉施設の環境向上を支援する名古屋モデルの全国発信を目指して